

事業名	人間がつける動物の命の値段（講演会）				
ジャンル	家庭教育 ・ 青少年教育 ・ 成人教育 ・ 団体育成				
事業分類	実際生活に即する教育 ・ 学術及び文化に関する各種の事業（社会教育法第20条「公民館の目的」より）				
事業意図	住民の教養の向上 ・ 健康の増進 ・ 情操の純化（社会教育法第20条より）				
事業目的	生活文化の振興 ・ 社会福祉の増進（社会教育法第20条より）				
日程	令和6年7月27日（土）	講師	体験型動物園iZoo園長 爬虫類研究家 白輪 剛史	参加費	0円
対象者	小学5年～中学生と保護者 動物一般に興味がある成人	参加者数 (延べ)	39人	募集方法	市広報、公民館だより、ホームページ、ポスター、LINE、マチコミメール等
趣旨	本来の生息地から遠く離れた場所へ連れて来られ、ペットとして飼育される外来生物や危険生物が捨てられたり、逃げ出したりといった事件が起こる度、恐れられる動物達。果たして彼らは悪ものなのか？彼らの命は、彼ら自身のものではないのか？カミツキガメの一大生息地として知られる印旛沼。わたし達の身近でも起きている問題について、専門家から学び、佐倉の将来を担う子ども達が家族と一緒に学び、話し合い、郷土である佐倉への関心を持ってもらう契機とする。				
内容	2021年に横浜で起きたアミメニシキヘビ脱走事件の名探偵であり、TVでも活躍されている体験型動物園iZOO園長、爬虫類研究家である白輪剛史氏による講演。私たちの身近でも起きている外来生物の問題について専門家の知識と経験からお話いただく。また、動物商でもある講師から、知られざる動物取引の世界についてもお話いただき、改めて動物の命について考える契機とする。				
工夫	【チラシの工夫】 ・目につく色を使用、講師の説明として、講師の写真・「御著書多数」・「TVでもご活躍」、リード文の記載等 【周知の工夫】 ・LINEの配信時間の工夫（他の市のLINEがあまり配信されない時間に配信設定）				
成果	アンケート回答では半数以上が満足と回答くださり、また、様々な感想を寄せてくださり、命について改めて考えるという講座の目的は達成し得たと考える。				
課題	アンケートでは、大人から「子どもには難し過ぎる」等の感想がある一方、子どもから「すごいおもしろかった」という感想もあった。 「『難しい内容』は、本当に子どもには無理なのか？」言い換えれば「大人が考えるところの子ども向け、『子ども仕様』に企画した内容」で子どもの好奇心を十分満たすことは出来るのか？ 担当としては、子ども達の理解する力や可能性を信じ、子どもの好奇心を満たすために「子ども向けの講座でも『子ども仕様』にしたくない」という思いがあっても、公民館の事業としては「子ども向けの講座は『子ども仕様』にする」ことが好ましいのかもしれない。 こうした両立し難い点について、その他の諸条件（予算、講師等々）も勘案しながら、いかなる落としどころを見つけて事業を企画していくのか？は、今後の大きな課題である。				

【公民館による事業評価】

項目	評価	視点
必要性	B	・公民館が行う必要があるか。 ・市民や利用者のニーズに合っているか。 ・目的や役割が薄れていないか。 ・事業の休止・廃止した場合の影響は大きい。
優先性	A	・事業の優先度は高いか。
公平性	A	・対象者に情報は流れているか。 ・受益者負担はあるか(実費・教材費)
有効性	A	・期待通りの成果が得られているか。 ・さらに成果を高めるためにやり方の見直しは必要か。 ・市民の満足度は高いか。
効率性	A	・事業の効率性はどうか。 ・事業運営に学習者が参画しているか。 ・他事業との統合は考えられるか。
総合評価	A	A：適切で成果が得られている。 B：課題あり、成果はある程度ある。 C：課題あり、成果があまりない。 D：成果が得られていない。
特記		

《凡例》 ① ← A B C D → ② ③ ④ ⑤

《判定例》

A	A	A	A	A	A	A	A
A	A	B	A	B	B	A	A
A	A	A	B	B	A	B	B

次年度展望	⑤	①：事業拡大 ④：目的達成により終了	②：現状規模で継続 ⑤：統合・改善・その他	③：事業縮小
-------	---	-----------------------	--------------------------	--------

☆公民館運営審議委員付帯意見

(A：適切で成果あり B：成果はあるが、改善の余地あり C：要改善)

総合評価	委員① A	課題にある「子ども」の扱い方については学校にいる立場として、①子どもの求めるもの②子どもが消化できることのバランスは今後も求められると感じるが、子どもは”大人にあこがれる”というも事実で「わからないことをわかりやすく」の視点が大切であると思う。
総合評価	委員② A	ドキッとさせられるネーミングに引きつけられました。内容的な難しさは運営審議会でも話題になっていましたが、門戸を開くことは大切だと思いますし、参加したことでより興味・関心が高まることも十分あり得るのではないのでしょうか。講師の先生に、一時期話題となった方を呼んでいただけたのも良かったです。
総合評価	委員③ A	大人向けの講演会だと感じた。興味のある子にとっては、たまらない話であったことが想像がつく。深めた興味を発展持続させるのは、家庭の力が期待される。招へいされた講師が著名人であることに驚いた。話を聴かせるターゲットが難しい。
総合評価	委員④ A	映像がなかったので、子供によってはわかりにくかったり、飽きてしまったりする子もいたが、何よりも親子で考えたり話したりしながら学習できたことがよかったと思う。お話の内容は、初めて知ることも多く、興味深かったのではないかと推察される。子供の可能性を信じたい。学習室3のような大ホールよりも狭い部屋で実施できると距離感が縮まったのではないのでしょうか。
総合評価	委員⑤ A	テーマはすごく良いと思います。進行方法をニーズに合った方向へ向くと更に良いかと。
総合評価	委員⑥ A	佐倉市民にとっての関心事であるカミツキガメを含む外来生物にスポットをあて、著名な白輪氏を講師として迎えた本事業を実施するまでの過程を含めて評価は十分にしていると思います。参加した子ども達のアンケート結果からも成功された事業であると思います。柔軟性の高い子ども達の参加結果から続編を期します。
総合評価	委員⑦ B	実際の講演を聴いていないので多くを語れないのが残念です。事業名の付け方は興味をそそるいいアイデアだと思います。反面、補足がないとどんなイメージが浮かぶか十人十色。講師は知る人ぞ知る、知らない人は全く知らない人も知れません。「危険生物」と「カミツキガメ」の二語が入ったことで具体化し、改善されたようです。受講者のアンケートからのみ類推すれば、概ね満足が得られたと考えるべきでしょうか。恐竜を圧倒的に好む子ども世代にとって爬虫類は身近な存在でもあり、親子で今回のテーマを語り合うきっかけを作った点で良かったと思います。夏休み期間中には応募者がちょっと寂しかった印象があります。PR方法に工夫を凝らしたようですが、なぜもっと増えなかったのだろうか、担当者のみならず職員間で討議してください。

委員⑧		家庭教育における内容として、子どもと共に考える内容の深さを感じました。身近な生き物に限らず、人間が関わった生き物がどのように生きていくのか、言わば責任を感じて見つめる学びになったと思います。
総合評価	A	

委員⑨		
総合評価	A	

委員⑩		興味深い良い企画だと思えます。残念な点は参加対象が狭いことですね。しかし、担当者が気づき、反省点に上げていることから、来年度に期待したいです。
総合評価	A	

委員⑪		爬虫類の好きな（興味のある）子供達にとって、日本の中でも有名な専門家の先生の話は、夏休みの最高のプレゼントだったと思えます。 改善点は委員会で提案させて頂きましたが、小学生を対象とした、よりフレンドリーの会をご検討下さい。
総合評価	A	

委員⑫		講座名称・講座選択は時節に合う極めて最適の講座だと期待していた。社会的問題になっている「カミツキガメ」の“産地”としてマスコミに散々取り上げられた佐倉市が、その「問題の根本を問う講座を公民館で開催する」とは、広く注目を集めると思われた。ただ、開催に先立ち一つ気になった点は家庭教育のジャンルで行われると記された点である。生き物に値段がつけられ、世界中から集められる小動物、そして果たして幸せな生涯を送れる者は1割も居るだろうか。そんな難しい問題を小学生連れの親子に訴えるとは大変な努力（&テクニック）が必要とされるだろう。そしていざ開会となると、想像どおり会場を見た講師は見事に講和内容を軟化された。しかし子供相手を前提としていない講師は子供に不可欠な映像の準備が無い。その結果は子供達の立ち遊ぶ会場であり、アンケート結果の良かった点は「カミツキガメの発信地が解ったこと」くらい。勿論ペットは子供が意味なく欲しがれる物でもあり、親子で真剣に考えて欲しい課題であるが、やはり難しかった。講師との十分な打ち合わせが必要だったと思われる。
総合評価	B	

委員⑬		子どもには難しすぎるという意見もあるようですが、学校教育と異なり、専門的な内容を紹介できる公民館は素晴らしい。映像がなかった点は残念です。眼と耳から入る内容は深まります。
総合評価	A	

委員⑭		「難しい内容は本当に子供は無理なのか？」という問いは非常に重要な視点です。子供たちの理解力や可能性を信じ、子供の好奇心を刺激するような企画を検討する余地は十分にあると考えられます。しかし、公民館の事業としては、子供向けの講座は「子供仕様」にすることが好ましいという考え方もあるようです。どのように折り合いをつけていくかが今後の課題。具体策としては、①講演内容の精査。子供にも理解できる部分と大人向けの専門的な部分を分けメリハリをつける。②保護者向けの解説。保護者向けに講演内容の解説資料を用意したり、講演後に質疑応答の時間を設定。③子供向けの事前学習。事前に講演内容に関連する資料を提供したり、ワークショップを開催したりする。これらの対策を講じることで、子供にも大人にも有益な講演会にすることができるのではないのでしょうか。
総合評価	A	

委員⑮		奇抜な発想の講演会を提案され、なかなか思いつかない題材に関心致しました。他の意見でスライド方式でもっとリアルに出したらとの意見もありましたが爬虫類等に関しましては写真より絵書きで表す方が受けやすいと思えます。
総合評価	B	